

# おかえり



## ～交流から滞在、そして定住へ～

### ちよこつと匹見を体験したい方は…

◇農家民泊…匹見町には、2軒の農家民泊があります。農家に泊って、のんびりゆったり過ごしてください。

#### 民泊「三四四」



《体験内容》  
ものづくり体験（布ぞうり、かご編みなど）、山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験など  
■体験料 1泊2食 5,000円  
■益田市匹見町道川イ214  
Tel/Fax.0856-58-0020

#### 農家民泊「内谷とちの郷」



《体験内容》  
ワサビの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体験（こんにやく、ワサビの醤油漬けなど）、もちつきなど  
■体験料 1泊2食 5,000円  
■益田市匹見町石谷口561  
Tel/Fax.0856-56-0589

### ◇田舎体験

匹見町では登山や川遊びなど、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「食品加工体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」、「神楽体験」などを楽しむことができます。詳しくは、ひきみ田舎体験推進協議会ホームページ (<http://www.town.hikimi.shimane.jp/inakataiken>) をご覧ください。



ワサビの料理体験の様子▲

### もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しました。

《使用者の条件》  
(1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人  
(2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人  
《使用期間》  
1ヵ月以上3年以内  
《使用料》



平成23年1月現在

施設区分	戸数(空き戸数)	使用料(月額)
単身用(1DK)	2(0)	8,100円
世帯用(3DK)	2(1)	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。  
《使用について》  
施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の方は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出ください。  
(詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。)

### 匹見への定住をお考えの方は…

◇住まい  
空き家(※)や公営住宅をご紹介します。  
◇就業支援  
益田市外から移住し、農林水産業へ就業することを目的として産業体験を行う人に、「益田市農林水産業就業支援助成金」制度による支援策で、就業と定住を支援しています。

(※) 空き家バンク制度  
益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。  
この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

はじめの一步を応援！  
定住アドバイザー



勝部真(かつべまこと)さん



山室弥生(やまむろやよい)さん



高田純子(たかたじゅんこ)さん

■広島県広島市から1ターン  
■島根県松江市出身  
■定住開始 平成5年2月  
■現住所 匹見町匹見イ66714  
■家族 6人(両親、息子、娘2人)

■大阪府豊中市から1ターン  
■大阪府出身  
■定住開始 平成15年5月  
■現住所 匹見町道川イ307  
■家族 3人(夫、娘1人)

■広島県広島市から1ターン  
■広島県出身  
■定住開始 平成7年7月  
■現住所 匹見町道川イ307  
■家族 4人(夫、娘2人)



益田市では、山陰中央新報社と協力して、ふるさとの最新情報を定期的に電子メールでお届けする「益田市ふるさとメール」の会員を募集しています。  
配信日 毎週火曜日  
申し込み先 山陰中央新報社のホームページ <http://www.sanin-chuo.co.jp/furusato/>  
問い合わせ先 益田市政策企画課広報広聴・統計係 電話 0856-31-0112

◎ 定住・UIターンに関する問い合わせ先  
益田市匹見総合支所地域振興課 〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260  
電話 0856-56-0301 FAX 0856-56-0362  
ホームページ <http://www.town.hikimi.shimane.jp/>

地域と共に ひきみで暮らす

# キーワードは“交流”

雑木に覆われた、主のいないボロボロの住宅を買い取り、自らの手で改装。リフォームがテーマのテレビ番組「大改造/劇的リフォームアフター」並みに、快適な住空間に変身させた藤井一城さん(66)。  
妻・幸恵さん(62)との、匹見町三出原での、新居“生活は、平成20年10月から始まった。



益田市匹見町三出原  
藤井一城さん  
幸恵さん

## 定年後は、ワサビを作りたい

共に日原町出身。幼い頃から機械いじりが好きだった一城さんは、航空自衛隊などを経て全日空に入社。整備士として長年勤務し、大阪を拠点に、北海道から九州まで全国を飛び回った。「55歳ごろ、退職したら田舎へ帰り、谷ワサビをやるうと思ふようになった」。当時、中間管理職で、都会の人間関係にストレスを感じていましたから。定年後に帰郷し、借家住まいをしながら空き家を探していたが、貸し手が見つからない。そんなとき、匹見町に暮らす兄の佐伯敏夫さん(83)から、「旧澄川診療所の医師住宅が、売りに出されている」ことを知らされた。20年春、2人で物件を見に出かけ、「直せば住めなくもない」と判断。敏夫さんが、匹見で谷ワサビを所有、栽培していることも分かった。決意は固まった。それから4ヶ月、敏夫さんの自宅に住み込みながらの改装作業が始まった。

## 自分の手で空き家を改装

日の出とともに現場へ出かけ

## 生まれ変わった空き住宅

《玄関》



《台所》



## 地域と共に

日没まで。雑木と化した庭木の撤去・剪定、段差のある床を剥がしてバリアフリーに張り直し、漆喰壁はペンキで塗り替えた。「腕は日曜大工程度」と謙遜するが、業者に依頼した風呂とキッチンを除けば、幸恵さんの協力を得ながら、玄関、車庫、瓦の葺き替え、こだわりの対面キッチンに至るまで、一城さんの自作。ホームセンターに足しげく通い、費用は極力抑えたり、転居後もまもなく自治会に入り、地域へもすぐに溶け込んだ。飲むのが好き(一城さん)で、飲むのが好き(一城さん)で、社交的な2人は、これまでも近所や職場の仲間を自宅に招いていた。公民館の隣が新居ということもあり、二次会“の場所になるのに時間はかからなかった。飲めば、話題はおのずと地域に行き着く。「地域のひと話をすると、まず出てくるのが、できない」「無理」という言葉。とにかく元気を出すことを考えなければ」。

さらに同年12月から、民生委員も務める。「一人暮らしの人が月1回集まり、ワイワイ話ができる機会を作りたい」という。プライベートでは野菜作りに挑戦中の幸恵さんも、婦人会や「匹見下ふるさとを興す会」、高齢者の閉じこもり防止を目的に設立されたサロン「澄川さらくな会」に加入し、地域と関わっている。「いろんな人と話をするのが楽しみ」と微笑む。2人の生き様に共通するのは、「交流」というキーワード。本腰を入れた谷ワサビの栽培は、もう少し先のことになりそうだ。

一城さんは、旧澄川小学校の跡地利用を模索する中、22年5月に結成された「匹見下ふるさとを興す会」に入会。と同時に、田舎体験部長に担ぎ上げられた。「定住も大切だけれど、まずは交流。地域のひとと一緒に、気軽に来てもらえる環境を作りたい」と抱負を語る。

## 「真冬の匹見山里体験」

### 食体験やかんじきウオーキングを満喫

匹見町三笹地区の簡易宿泊施設「夢ファクトリーみささ」で2月5日、「真冬の匹見山里体験」が行われ、遠くは広島から親子連れなど26名が参加しました。

地域に伝わる豆腐やこんにやく作り、そば打ちに挑戦。昼食では、シン鍋も振る舞われました。午後からは、冬の暮らしに欠かせないかんじきを履き、雪上を歩いたり、そり遊びを楽しみ子どもたちの歓声があがっていました。今冬は例年になく積雪で、参加者は終日、冬の匹見を楽しみました。



## 「匹見下ふるさとを興す会」結成

### 都市と田舎との交流を目指し

「田舎ツーリズム(都市と田舎との交流や体験)を通して、地域の活性化を図っている」「匹見下ふるさとを興す会」。

同会は、平成18年3月に地元市立澄川小学校が閉校したのを機に、跡地利用を模索する中で、22年5月に誕生しました。これまで、先進地への視察や研修をはじめ、講演会などを開催することで、田舎ツーリズムへの理解を深めてきました。

22年夏には、「ふれあいサマーキャンプ事業」の一環で、神奈川県川崎市の小中学生20名を受け入れ、子どもたちと一緒に、川遊びやボン菓子作りなどを楽しみました。写真。

「家族でのキャンプや、教育旅行の受け入れなど、何度も足を運んでもらえる地域になれば」と、23年度以降、町外客を呼び込んでの田舎体験事業を展開したい考えです。



## ひきみ瓦版

ふるさとのはな

## 春が来たら、道川へ 5月連休「道川春祭り」

標高500メートル、西中国



山地に抱かれた道川地区は、有数の豪雪地帯です。冬場は、うずたかく積もった雪の崩に囲まれ、写真、動植物たちは寒さに縮こまっています。けれど、雪が解け、草木が芽吹く頃には、山も里も活気づきます。

5月5日に地域挙げて行われる「道川春祭り」は、まさに新年度のスタートを切るのにふさわしいイベントです。

「道の駅匹見峡」(出合いの里みちかわ)を会場に、山菜の天ぷらや打ちたてのそばなど、郷

## 空き家を探しています。

益田市では、空き家の有効活用を通して、都市住民との交流や、定住促進による地域の活性化を図るため、「空き家バンク制度」を設けています。

この制度では、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、Uターン希望者にそれぞれ登録してもらい、空き家の情報収集・提供を行っています。

現在、空き家バンク登録件数は9棟(うち8棟成立、平成23年1月現在)で、匹見での田舎暮らしを強く希望する方々の要望に応えられない状況です。

匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、匹見総合支所地域振興課(電話0856・56・0301)へご連絡ください。

